

第1回 認知症条例ワークショップ実施概要

実施日時

令和3年4月30日（金）14:00～16:00

開催場所

市役所4階 S2・3・4会議室

実施内容

- ・趣旨説明
- ・認知症当事者のお話（動画視聴）
- ・本日来ていただいたご本人からのお話
- ・グループディスカッション
（本人、家族、関係機関等様々な立場の方が混ざったグループ分け）
ディスカッションのテーマの例
 - ▶ 動画や認知症の当事者のお話を聞いた感想
 - ▶ 認知症の私が、自分が認知症になったら、どんな地域だったら暮らしやすいか、安心できるか
 - ▶ 自分にできること
- ・各グループで話し合った内容の共有



参加者（30人）

内訳	人数	備考
コーディネーター	1	認知症介護研究・研修東京センター 永田久美子氏
認知症の本人	3	
家族	4	
関係機関	6	
民間事業所	4	スポーツクラブ1、ホテル1、小売り業1、スーパー1
地域の方	3	浦安介護予防アカデミア傾聴班2、地域住民1
事務局	9	認知症地域支援推進員4、中央地域包括支援センター1、高齢者包括支援課4

第1回 ワークショップ（令和3年4月30日）主な意見

感想

- ・ 本人を交えたこのような機会はとてもよかった。
- ・ 本人の話を聞いて、それぞれの方が認知症とは思えない。

本人の思い

- ・ 診断を受けた時、本当にショックだった。認知症を受け止め、整理するまでかなり時間がかかった。
- ・ 最初はすごく勇気がいる。皆に知られちゃう。
- ・ 言うことによってだんだん気にならなくなる。
- ・（認知症地域支援推進員より）認知症を個性だと言える人もいれば、ネガティブにとらえる人もいる。

- ・ マラソンが楽しい。すべて忘れて集中できる。
- ・ （認知症デイサービスの職員より）重度になっても自分の役割がほしい方が多い。
- ・（地域の方より）生きがいがあるのでは。小さなことでも構わないので、何か必要とされていることがあることが大切。存在意義。認知症になっても、病気で動けなくても。

- ・ 一人は寂しい。皆と集まって交流できる場所がほしい。
- ・ 近所と交流がある、みんな優しい。この間、困ったことがあったが、近所の方が助けてくれた。
- ・ 人との付き合いが苦手な人もいる。そういう人は孤立してしまう。フォローできるといい。
- ・ ギャンブル、競馬、好きなものがあるところに乗ってくれる人は次も誘うことができ、仲間になっていける。そういう楽しみはいいことだと思う。

- ・ なじみのお店があったが、途中で道に迷い行けなくなってしまった。店員さんも仲良しだったため、行けなくなってしまったことが悔やまれる。

- ・ 接したときの最初の言葉がどのように出てくるか、ということが私の一番気にしているところ。だれかと別れるときも一緒。別れる時の最後の言葉を大事にしている。

地域の現状

- ・ 偏見の目ってまだまだ世間にいっぱいあると思う。認知症のことを周囲にいう前に、世間をもうちょっと変えていかないと難しいんじゃないかなってすごく思う。
- ・ 認知症を受け入れる体制、こころができていない。だから皆さん認知症だと表面に表わさない方が多い。
- ・ 認知症になった家族が、今までやっていたサロンに入っていくと「自分たちは認知症になりたくないからやっているんだから、来なくてくれ」と厳しい言葉をかけられた。
- ・ 冷たい人もいる。

第1回 ワークショップ（令和3年4月30日）主な意見

- ・（本人より）近所と交流がある、みんな優しい。この間、困った時も近所の人が助けてくれた。

個人の取り組み

- ・ 認知症になる前もなつた後も好きなものを持っていると、どんなことにも活かされる。好きなものは辞めずに続けていくことが大事。
- ・ いつ介護がくるかわからない。事前に勉強しておくことが必要。
- ・ 認知症を正しく理解することが、住民のつながりが増えることになる。
- ・ いずれ我が身だと思って認知症の人にあたたくしない。

家族

- ・ 色々な機会に話を聞いてもらえる環境、場がほしい。
- ・ 周囲に伝えたら、自分の肩の荷が下りて、楽になった。
- ・ 介護者が楽になれば、本人ともうまくいくんじゃないか。
- ・ 認知症を治すのではなく、付き合っていくこと。
- ・ 介護をしながら母から色々なことを教えてもらっている。生き方を真剣に考えなきゃいけない時代。

連携

- ・（企業より）いざ何ができるかという迷いながらなので、逆に要望いただければ。
- ・ 企業・本人・家族・専門職、皆が試行錯誤。一緒に考えることが大切。だが、本人や家族が認知症と（周囲に）言えないとつながれない。

課題など

- ・ 人が入ることを拒む人もいるが、やっぱり一人でいるのは寂しいと思うので、フォローできるといい。
- ・ 地域の中で誰が助けてくれるか、誰が声をかけてくれるか、求めている人が多いと思う。困っていても、自分から助けを求めにいけない人がいる。制度、サービスなど仕組みがあって利用者もいるが、実際足元までおりていってやっている、というのがまだまだ足りないと思う。足元のところで細かい点をどうしたらいいのか、暮らしやすいまちづくりを考えるうえで重要。
- ・ 人との付き合いが苦手な人もいる。そういう人は孤立してしまう。フォローできるといい。
- ・ 近所付き合いが少なく、マンションの隣がどんな人かわからない。
- ・ 浦安はディズニーランドというイメージから、浦安は介護・助け合いの街というイメージにしたい。